

2021年度 総合政策学部 FD 活動報告

総合政策学部では本年度のFD活動方針・活動計画として3項目を掲げている。すなわち、前年度より継続して取り組んでいる「総合政策基礎演習」の改善に関して具体的な改善策をまとめること(1)、その検討に伴い、「総合政策的基礎」の議論を進めること(2)、ディプロマ・ポリシーに対応した教育の達成度についての評価法の改善を検討すること(3)である。また、当初の方針には入っていなかったが、学部FDとして取り組むべき課題として、ハイブリッド授業を円滑に運営するための情報共有と方法の検討(4)の必要性が、年度中に顕在化したことから、これについてもFD活動を行なった。以下、これらの項目についての活動内容を報告する。

1 「総合政策基礎演習」の改善に関する検討

前年度、取り組みを始めた「総合政策基礎演習」の改善について、懇談会を3回開催し、改革案検討チームの作業と提案を軸に検討を深め、2022年度より新たな形で「基礎演習B」を開講する具体的な方法をまとめた。懇談会各回の概要は次の通りである。

① FD懇談会「総合政策基礎演習Bの改革検討について(1)」2021年6月30日/参加22名

改革案検討チームより改革の素案について説明があり、それについて、参加教員から質疑、提案など意見交換が行なわれた。主な話題は次の通り：

- ・総合政策基礎演習A、Cとのスムーズかつ効果的な連結について
- ・エクセル活用に関する説明・実習を行なうタイミングについて
- ・評価方法について
- ・運営に当たる教員について。

② FD懇談会「総合政策基礎演習Bの改革検討について(2)」2021年7月14日/参加24名

改革案検討チームより、前回6/30懇談会での検討を踏まえて改訂を加えた素案について説明があり、それについて、参加教員から質疑、提案など意見交換が行なわれた。主な話題は次の通り：

- ・全体講義と個別講義の内容・構成と、実際の運用について
- ・個別講義で行なうディスカッションの進め方、到達目標について
- ・運営に当たる教員について
- ・総合政策基礎演習Bを政策立案の入り口を知る場と捉える考え方について

③ FD懇談会「総合政策基礎演習Bの改革検討について(3)」2021年9月8日/参加23名

改革案検討チームより、前回7/14懇談会での検討を踏まえて改訂を加えた素案について説明があり、それについて、参加者全員の同意が得られた。また、今後の時間割編成日程の中での進め方などを確認した。主な話題は次の通り：

- ・全体講義と個別講義の内容・構成と、実際の運用について
- ・個別講義で行なうディスカッションの進め方、到達目標について
- ・各教員の担当について

2 「総合政策的基礎」の検討

上記1「総合政策基礎演習」の改善に関する検討そのものが、総合政策の学びへの導入として「総合政策的基礎」の側面を充実させる議論の一端となったと考え得るが、『知の演習』と並行するような新たなテキスト作成など具体的な方策などの検討は継続の課題となる。

3 ディプロマ・ポリシーに対応した教育の達成度についての評価法の改善

2020年度試行的に実施した卒業論文の評価について、本年度は点検を行なったうえで、現状の評価法を維持する態勢にある。

4 ハイブリッド授業を円滑に運営するための情報共有と方法の検討

本年度、できるだけ対面授業を取り入れるという大学の方針のもと、学期途中にオンライン授業から対面やハイブリッド授業に変更を経験した科目があり、その対応に難渋した教員も少なからず見られた。そこで、ハイブリッド授業の問題点を共有し、より円滑な授業運営方法を探っておくことによって、今後の授業運営の参考となり得る研修の場を持った。

① FD研修会「ハイブリッド授業の円滑な運営方法について」2022年3月9日/参加25名

研修会に先だって開催案内をPORTAで掲示し、学部以外の教員3名の参加があった。はじめにハイブリッドでの講義科目担当の経験について、2名の教員よりそれぞれ話題提供があった。この話題提供に加え、事前に学部内で実施した「ハイブリッド授業に関するアンケート」への回答を集約した資料（参加者に予め配布）も合わせ踏まえて、参加者の間で意見交換がなされた。いずれも新学期以降の授業運営の中で参考にされ活用されることが期待される。主な話題は次のとおり：

- ・資料提示、資料提供で効果的な工夫
- ・教室とオンラインとの出席確認の仕分け方
- ・授業スタート以降に対面からハイブリッドへの切替え過程で必要となる判断や対応
- ・教室の音声の効果的な拾い方
- ・学生に対して「カメラON」の徹底は現実難しい
- ・演習形式の授業で特有のハイブリッド対応
- ・授業中に予期せず起こるオンライン・トラブルへのサポート必要性
- ・対面授業やハイブリッド授業、オンライン授業への学生の受けとめ（反響）はどうか

以上